

せんじゅひろし 千住博展

「ウォーターフォール」シリーズ
史上の最高傑作

特別展示

銀座・永井画廊で2011年軽井沢千住博美術館開館記念展以来となる個展が開催される。この度の展覧では1995年、画家がヴェネチアビエンナーレで東洋人初、日本画史上で初の名誉賞を受賞した最初の貴

重な『ウォーターフォール』の一作、シリーズ史上の最高傑作が特別展示される。オリジナル銅



「ウォーターフォール」1995年 162・1×112・1cm 岩絵具、紙

が新型コロナウイルスの感染症拡大で動揺、震撼する中、千住氏がニューヨークから人々を勇気づける緊急メッセージを寄せてくれた。以下、全文掲載。

1995年の滝に寄せて—今なぜ95年の滝を特別公開するのか

千住博

私達は、バブルの崩壊、同時多発テロ、東日本震災等様々な困難に立ち向かって現代文明を生きています。

1995年にこの作品を描いた背景にも、様々なことがありました。

1995年1月、阪神淡路大震災、そして3月に起こったのが地下鉄サリン事件でした。

コロナの蔓延で大変な2020年ですが、1995年も日本にとつては本当に過酷な状況でした。

そんな中、清らかな水が美しく流れ続ける滝のシリーズを始めたのもこの1995年です。

ひるがえって、絶望的な雰囲気の中、今まで芸術は何を残してきたか。第一次世界大戦のさなか、デュシ

ヤンが発表したのは、例の衝撃的な「泉」でした、この作品によって、新しい価値観である現代芸術は産声を上げたとも言われます。

第二次世界大戦には、エルンスト、ミロ、マグリット、ジャコメッティ、

私たちの夢の解放とも言える画業の中心が重なります。

芸術は、悩む人の側に立ちます。そしてその心を発散し、勇気を鼓舞し、生命を激励します。

それを示すのがこの大戦期間中の美術史の語るところだと思います。

1995年のこの滝には、この年の閉塞感を洗い流したい、人々がはじめから持っている生きる力を美によつて活性化してもらいたい、という気持ちが強かったと思います。

2020年、見えない脅威に人々が苦しむこの年、1995年に制作した作品は、もしかしたら皆さんの心にわずかも力添えができるのではないかと思います。(日本画家)

4月1日(水)～5月13日(水) 永井画廊(東京都中央区銀座8-6-25 河北新報ビル5F) ☎03-5554-5160 開土・日・祝日 無料 開11時～19時